

## 好評を得た第1回社長懇話会

### 平面研削盤で世界一の長島精工(株)見学と懇談会

A T A Cでは、中堅・中小企業の社長の皆様の個性あふれた経営理念や考え方をお互いに語り合える場があれば、経営の舵取りにさらに深みを増すとともに、A T A Cの今後のコンサルティングにいろいろと示唆を与えていただけたと考え、A T A Cに社長懇話会を設け、その第1回会合を去る3月5日(水)に開催しました。



第1回は人材育成をテーマに世界最高水準の平面研削盤を生産する京都府城陽市の長島精工株式会社本社工場を見学した後、京都市内のホテルで長島社長の持論を拝聴しました。その後、参加社長の活発な意見交換が行われ、熱のこもった社長懇話会となり、たいへん好評でした。

当日はソフト開発、流体機械、自動制御機器、包装資材、プラスチック製品、精密ヒーター、微生物関連まで、多彩な業種の中堅・中小企業の社長様11名のご参加をいただき、それぞれの立場で見学と懇談を通じて、人材育成と技能の大切さに感銘され収穫ある懇談会を経験されたことと思います。

長島精工では、「キサゲと三面摺り」という手作業の技で研削精度に必要な研削盤の滑り面の精度を上げ、ドイツのユング社を抜いて世界一の加工精度を誇っています。それは、平均年齢28歳の若い技能者の手作業から生まれており、その職人の技能教育が当社の平面研削盤の機軸となっているのです。今後日本の製造業が世界に通用する製品を作り続けるための技能の大

切さが強調されていますが、それをまのあたりに見て、一同深い感銘を受けました。工場では次々に出来上がっていく製品や、海外有名メーカーの研削盤を修理している状況をつぶさに見学することができました。さらに、完成して出荷を待つ機械には、加工・組み立てを担当した技能者の名前が彫りこまれ「私が誠意と情熱を持って作り上げました。末永く愛情を持ってご使用ください」と書かれていました。

工場見学を終わって懇話会での長島社長のお話は自らの技能者としての経験から滲み出る熱弁で創業当時の苦労談から始まり、研削盤の精度は若者の技能から生まれ、その技能は体で覚えるのが一番との信念を一貫して強調され一同感服した次第です。



最先端産業を支える超精密技術は、日本の伝統に培われた職人の「こだわりのキサゲ作業」から生まれる。

**お知らせ** 第2回社長懇話会を7月23日(水)に開催する予定です。詳細は追って発表しますのでご期待ください。